

平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 藤松 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成28年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立への取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.39	22.42	53.92
本市	16.78	19.79	31.93	41.14	51.08	9.41	151.32	23.82	53.77

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	18.60	37.21	40.06	41.29	9.61	145.31	13.88	55.54
本市	16.48	18.34	35.88	39.07	40.17	9.67	145.18	13.97	54.74

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
運動に対する自信が弱く、自主的に運動する機会をもとうという意欲も低い傾向がある。また、体力テストや日々の授業でめあてや目標をもって取り組む意識が低いこともわかった。しかし「ランランタイム」や「持久走大会」、「なわとび集会」などでは、目標をもって練習に取り組んだり達成感を味わったりする姿が多く見られたことから、児童が明確に目標設定することのできる形で運動に取り組ませることが重要であると言える。日々の授業で児童がめあてや目標をもち、ふり返って自信や達成感につなげるよう改善することが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

体育科授業で一時間のめあてを明確にもって学習に取り組み、それについてのふり返りを行うことで一時間の成果や自分の成長を実感できるように、授業改善を行う。また、授業づくりのための校内研修を年間研修計画に位置付け全教職員参加で実施する(4月校内授業研・夏季休業期間中研修 他)。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

汗をかく準備運動として、「授業開始前の〇分間走」や、3学期の持久走大会とそれに向けた「ランランタイム」、「なわとび集会」などの取組を継続して行う。「ランランタイム」については期間を拡大したり、頻度を上げたりして取組を充実させる。また、運動会や学年ごとのスポーツ大会などの機会にも同様の取組期間を設け、年間を通じて運動に関する目標とそれに向けた取組を増やす。取組の成果については記録カードやふり返りカードなどを活用して家庭とも共有できるようにする。